

令和8年7月29日
青森市経済部観光課長

株式会社日立製作所・奈良県吉野町による 「日立連合ねぶた委員会青森ねぶた祭啓発活動」に関する市長表敬訪問

株式会社日立製作所・奈良県吉野町において「日立連合ねぶた委員会 青森ねぶた祭啓発活動」を報告するため、下記のとおり市長を表敬訪問しますので、取材・報道をお願いします。

日時

令和8年8月5日（水）午前11時45分～正午

場所

青森市役所本庁舎 2階 庁議室

出席者

株式会社日立製作所東北支社

東北支社長 西山 重憲（にしやま しげのり）様

青森支店長 矢作 龍三（やはぎ りゅうぞう）様

企画部 部長代理 土井 英嗣（どい ひでつぐ）様

奈良県吉野町

町長 中井 章太（なかい あきもと）様

啓発活動概要

青森ねぶた祭は、国の重要無形民俗文化財。その伝統文化の継承を企業の責務と捉え、出陣テーマにゆかりのある自治体を表敬し、文化交流を通じて、無形民俗文化財であるねぶたを次世代へ受け継ぐことに寄与します。

主旨：青森ねぶた祭の魅力を全国へ発信し、出陣テーマゆかりの地との文化交流を深める。その伝統文化の継承と長い歴史を脈々と紡いでいく責務と地域への貢献。

目的：出陣テーマにゆかりのある自治体を訪問し、ねぶたをご紹介のうえ下絵・運行写真を寄贈。2026年度は奈良県吉野町を舞台にした「吉野山 桜下の別れ」が出陣テーマ。

実績：2022年以降、毎年ゆかりの地を訪問し寄贈を継続。公開展示やメディア報道を通じ、青森ねぶた祭のファン獲得や啓発に貢献。



日立連合ねぶた 青森ねぶた祭

2026年 出陣テーマ「吉野山 桜下の別れ」



ねぶた師 北村 春一 画

「吉野山 桜下の別れ」

平氏を討ち果たし、源平合戦の英雄となった源義経であったが、兄・頼朝との不和により、情け容赦なく追われる身となった。静御前を伴い、逃げ延びた先は桜の爛漫たる吉野山。

しかし、当時の吉野山は女人禁制の峻厳なる修験の場。義経はこれ以上静を連れて行くことは叶わぬと悟り、苦渋の決断をもって別れを告げる。

再会を信じ、武士の誉れである弓を手に愛馬を駆り、孤独な旅路へと踏み出す義経。

その背を見送る静は、愛する人への尽きぬ思いと再会の願いを一振りの舞に込め、桜吹雪が舞い散る中で、涙を吞んで艶やかに舞い踊る。

本作は、たとえ離れていても互いの絆を信じ、消えることのない二人の「熱き鼓動」を表現した。

桜散る刹那の別れは、終わりではなく始まり。

この峻烈な覚悟は、暗雲を切り裂く光となり、まだ見ぬ輝かしき「未来の鼓動」を力強く伝えている。

日立連合ねぶた委員会

参考資料／『義経記』（ポプラ社）